新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

教科書の重み

阿賀野市立 水原中学校　３年　木　村　龍　眞　さん

「龍眞さん、お母さん、教科書は大切ですよ！」昨年の夏休みのこと、僕と母は中学校の先生に真剣にこんなお話をされたことがあった。僕は、その日夏休みの宿題をしようと図書館に来ていた。開館前、水筒を忘れたことに気付いた僕は教科書などが入ったカバンを非常階段に置き、自動販売機に向かった。それを見つけた図書館職員の方が心配し、中学校に連絡、仕事中の母にも連絡がいったのだった。僕の行動のせいで先生や図書館の職員の方に迷惑をかけてしまった。すぐにそのことを、駆け付けた母と謝りに行き母はお詫びをした。母は「特に貴重なものは入っていなかったのですが、捜していただき、御迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。」と謝った。その時先生から言われたのが冒頭の言葉だった。その日、母と僕は教科書について考えさせられることになった。

母は、もちろん無償で配付されている教科書が税金によって支えられていることは知っていたし、教科書を大切に使うべきだという考えを持っていた。母は「当たり前に使っているけれど、教科書は大切だよね。龍眞は教科書の裏に書いてあるメッセージを読んだことはある？」と僕に尋ねた。確かに読んだことがあった。新学期になると毎年配られる教科書。一つ大きくなった気がしてうれしい気持ちで毎年受け取っていた。改めて見てみると「この教科書は、これから日本を担うみなさんへの期待を込め、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」と書かれていた。

税金といえば、買い物したときに払うくらいしか僕が意識することはなかった。「どうして税金なんて取るのだろう」とあまり良いイメージを持っていなかった僕にとって、あの日の体験は今までの思いを変えるような一日になった。

なぜ国が教科書を無償で提供するのか考えてみた。いつかこの国を支えていく僕たちへの期待と、確かな学力をつけて成長してほしいという願いがあるのではないかと思う。それを支えるために、目には見えないけれど様々な人が税金でそれを支えてくれているのだと思った。税金にはマイナスなイメージを持ちがちだが、よく周りを見てみると、僕たちの当たり前にあるものも支えてくれているのだと気付く。教科書もその一つだ。自分が納めた税金が、未来を支えることや誰かを助けることにつながるのだと思うと、増税も悪いことだとは考えられない部分もある。

歳出でトップの社会保障の費用は、年々増えている。それは、日本では少子高齢化が進みその費用を負担する働き手が減っていることが原因だ。だからこそ、きちんと納税することが必要だと思った。目には見えないけれど誰かに支えられているというということを思って過ごしていきたい。